

令和6年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前： 中原 菜摘

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。
(1,000字程度)

今回の旅は、私にとって初めての海外訪問であり、すべてが新鮮で刺激的な体験でした。異国の文化に触れることはもちろん、現地の人々との交流を通して、多くの学びと感動を得ることができました。

まず、南昌市に到着して最初に訪れたのは「南昌市中日友好会館」でした。ここでは、温かく歓迎していただき、施設の見学を行いました。南昌市と私たちの住む高松市がどのようにして友好関係を築き上げてきたか、その歴史を学ぶことができ、両市の結びつきが強いことを改めて実感しました。館内には、日本語教室も開かれており、多くの日本語書籍が並んでいるのが印象的でした。高松の国際会館でも中国語教室が行われていることから、互いに相手国の言葉や文化を学び合う場があることが素晴らしいと感じました。その日の夜には、中日両国の文化交流イベントが開かれました。中国の参加者による歴史的な衣装を用いたファッションショーや、日本の歌を披露してもらうなど、非常に楽しい時間を過ごしました。私たちが日本で流行しているダンスを披露しましたが、中でも中国の人気音楽に合わせたダンスを披露した際には、大いに盛り上がり、観客の反応がとても良かったのが嬉しかったです。翌日は、景德鎮市に移動し、「陶磁技術師学院」を訪問しました。ここでは、学生たちの作品を見学したり、実際に陶磁器を作る体験をしました。私自身、陶芸の経験はありませんでしたが、現地の職人の指導の下、成形や絵付けを体験することで、景德鎮の伝統工芸の奥深さを感じることができました。また、ここで出会った学生たちは日本語を勉強しており、日本の文化に強い興味を持っていることに感心しました。彼らと一緒に行動し、語学の難しさを乗り越え、私たちとのコミュニケーションを楽しんでいる姿が非常に印象的でした。また、ヘリコプター科学技術館を訪れ、戦争中に使用されたヘリコプターや、実際に銃撃を受けた機体などが展示されているのを見て、歴史の重みを感じました。技術的な面でも多くの学びがあり、航空技術への興味が一層深まりました。その後、現地の市場を散策する機会もあり、普段の生活や街並みに触れることができました。南昌市の街は高層ビルが多く、バイクで移動する人が目立ちました。日本の街並みや生活様式とは異なり、人口の多さや交通手段の違いが印象的でした。今回の訪問では、現地の食文化にも多く触れることができました。江西省の料理は辛いものが多く、私の想像通りでした。特に印象に残ったのは、地元の学生と食事を共にしながら交流できたことです。料理を通じて彼らとの会話が弾み、文化や食に対する考え方の違いを感じつつも、共に楽しむことができました。今回の訪問を通して、異文化に対する理解が深まると同時に、人と人との繋がりの大切さを改めて感じました。国境を越えても、言葉や文化を共有し合い、お互いに理解し合うことができることは非常に素晴らしい経験でした。このように、訪問先での多彩な体験を通じて、中国文化や人々との絆を深めることができた今回の旅は、私にとって非常に有意義なものでした。